

(2) 第9期まえばしスマイルプランの取組状況について

(2) 第9期まえばしスマイルプランの取組状況について

① 第9期計画の目標設定

第8期計画の取組に対する評価、本市の高齢者の状況、国の基本指針の見直しなどを踏まえ、第8期計画の方向性を維持し、第9期計画の目標を以下の5つに設定しました。

目標Ⅰ	地域の連携強化と生活支援体制の構築 ⇒2、3頁へ
周囲とのつながりの弱い高齢者をはじめとする市民やその家族を地域全体で支えるため、地域における関係機関や多職種、住民間の一層の連携強化を目指します。 また、地域住民が互いに尊重し合いながら、社会参加・共生する地域社会の実現に向けて、地域の多様な主体による支え合いに向けた取組を一層推進するほか、権利擁護、自然災害や感染症対策に係る体制を整備します。	
目標Ⅱ	介護予防・健康づくりの推進 ⇒4～8頁へ
身近な地域で心身や生活の状況に合わせた介護予防に取り組むことができるよう、介護予防の普及・啓発を進めるとともに、高齢者の生きがい活動・社会参加を促進します。また、高齢者の健康づくりに関係部門と連携して取り組みます。	
目標Ⅲ	認知症高齢者支援の充実 ⇒9、10頁へ
認知症の発症予防・進行抑制とともに、認知症になっても本人やその家族が住み慣れた地域で安心して暮らせる社会に向けた支援を充実させます。	
目標Ⅳ	サービスの充実と暮らしの基盤の整備 ⇒11～13頁へ
住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けられるよう、介護保険サービスと高齢者福祉サービスを充実させるとともに、高齢者向け住まいを計画的に整備していきます。また、幅広い分野での人材確保及び育成を国・県と連携して進めます。	
目標Ⅴ	安定した介護保険制度の運営 ⇒14頁へ
情報分析に基づく給付適正化を実施し、利用者が真に必要なとする過不足のないサービス提供を促すことで、効率のかつ安定的な介護保険事業の運営を目指します。	

(2) 第9期まえばしスマイルプランの取組状況について

② 令和6年度上半期の取組状況

1) 目標 I 地域の連携強化と生活支援体制の構築

※第9期まえばしスマイルプラン 54頁～を参照

◆ 地域における相談・見守り体制の充実、連携強化に関する取組状況

● 主な取組 ✓ 課題 > 今後

		第8期		第9期	
		令和5年度 (実績)	令和6年度 (上半期実績)	令和6年度 (目標)	令和6年度 (目標)
地域包括支援センター 相談対応実件数	(件/年)	8,149	3,686 注	8,100	
ネットワーク構築関係業務に関する会議・ 研修会等実施数	(件/年)	31	8 注	30	
自立支援型地域ケア個別会議開催回数	(回/年)	12	5	12	

注:8月末実績

「地域包括支援センターの機能強化」

- 地域包括支援センターのリーフレットを市民目線でわかりやすく親しみやすい内容に一新
- 周知方法の工夫、積極的な地域の活動の場への参加等の継続

「地域ケア会議による多職種や地域との連携推進」

- 地域包括支援センターが自立支援型地域ケア個別会議を開催するため、ワーキングを開催し、開催方法等を検討
- 各地域包括支援センターが各1回開催予定
- ✓ 会議運営の力量の差
- 全12回終了後に振り返りを行い、次年度開催に向けた見直しと改善策を検討

◆ 医療と介護の連携強化に関する取組状況

目標		第8期		第9期	
		令和5年度 (実績)	令和6年度 (上半期実績)	令和6年度 (目標)	令和6年度 (目標)
医療と介護の連携会議(5ブロック会議) 開催数	(件/年)	11	※下半期開催	10	
認知症初期集中チームへの 医療・介護関係者からの依頼割合	(%)	32	42	36	
ACPと私の人生ノートに関する講習会の 受講者数	(人/年)	447	63	170	

「在宅医療・介護連携支援体制の充実」

- 11月開催予定の5ブロック合同の医療と介護の連携会議に向けて、ワーキングで内容等を検討
- ✓ 例年5ブロック毎の会議開催のため、他ブロックの取組状況の共有や市内全域での専門職の連携体制構築が困難
- 合同開催等で5ブロックの垣根を超えた連携体制づくり

「認知症に関する取組の強化」

- 事業周知のチラシの見直しや配布先の拡大
- ✓ 認知症高齢者と接する機会の多い医師や介護支援専門員からの依頼件数の伸び悩み
- 介護支援専門員の研修会で事業の具体的な事例等を紹介
- HP等の活用等、市医師会との連携

「看取りに関する取組の強化」

- 私の人生ノートの出前講座を市民を対象に対面で2回、学生に対して1回開催
- 下半期に市民対象の健康医学講座や出前講座を開催

(2) 第9期まえばしスマイルプランの取組状況について

② 令和6年度上半期の取組状況

1) 目標 1 地域の連携強化と生活支援体制の構築

※第9期まえばしスマイルプラン 61頁～を参照

◆ 利用者のサービス選択の自由と権利擁護の仕組みづくり

- ・成年後見制度の利用促進、
高齢者虐待防止等への対応に関する取組状況

目標	第8期	第9期	
	令和5年度 (実績)	令和6年度 (上半期実績)	令和6年度 (目標)
地域包括支援センターにおける 成年後見制度に関する延べ相談件数 (件/年)	267	125 注	245
市長申立て件数 (件/年)	27	8	20
認知症高齢者等成年後見制度利用支援事業 における後見人等の報酬費用の補助件数 (件/年)	25	13	20
成年後見制度利用促進事業 「(市民向け)権利擁護講座」参加者数 (人/年)	25	※下半期開催	36
成年後見制度利用促進事業 「支援者向け研修会」延べ参加者数 (人/年)	72	86	155
地域包括支援センターにおける 高齢者虐待に関する延べ相談件数 (件/年)	1,529	756 注	1,000
高齢者虐待に関する通報件数 (件/年)	88	50	90
虐待の事実があると判断された事例における 虐待の深刻度の平均値 (ポイント)	1.7	2.2	2.0

注:8月末実績

◆ 地域の多様な主体による支え合いづくりの推進

- ・生活支援体制整備の推進に関する取組状況

目標	第8期	第9期	
	令和5年度 (実績)	令和6年度 (上半期実績)	令和6年度 (目標)
住民主体による支えあい活動の累計件数 (件)	55	89	60
地域資源情報の累計把握数 (件)	689	690	740

「成年後見制度の利用促進」

- ✓ 相談体制整備のため職員の資質向上と中核機関との連携が必要
- ✓ 制度の認知度向上とともに理解を進める必要
- 介護支援専門員全体研修会での相談窓口の周知、地域包括支援センター職員に対する研修会への参加勧奨
- 令和6年11月より市民後見人養成講座を開催
- 制度の利用促進のため中核機関や庁内関係課と定期的にワーキンググループを開催

「高齢者虐待防止等への対応」

- ✓ 虐待の深刻度を軽減させるためには、問題が深刻化する前に発見し、早期に支援を開始することが重要
- 介護支援専門員対象の研修会を開催し、虐待の未然防止、早期発見・対応の必要性を説明

「生活支援体制整備の推進」

- ✓ 担い手不足などの理由から、町ごとの事業の理解や進捗に差
- 市社協や地域包括支援センターと連携し、企業や学生など新たな担い手と地域を繋げる取組を展開
- ✓ 地域資源の活用が進まない
- 地域資源情報の活用を促すチラシの作成による周知

(2) 第9期まえばしスマイルプランの取組状況について

② 令和6年度上半期の取組状況

2) 目標II 介護予防・健康づくりの推進

※第9期まえばしスマイルプラン 68頁～を参照

◆ 介護予防の推進

ア 介護予防・生活支援サービス事業に関する取組状況

目標	単位	第8期	第9期	
		令和5年度 (実績)	令和6年度 (上半期実績)	令和6年度 (目標)
訪問型サービスC 利用者数	(人/年)	8	4	8
通所型サービスA 利用者数	(人/月)	126	110	140
通所型サービスC 利用者数	(人/年)	32	8	50
見守り配食サービス 低栄養の利用者の延べ訪問件数	(件/年)	10	5	40

イ 一般介護予防事業(介護予防把握事業)に関する取組状況

目標	単位	第8期	第9期	
		令和5年度 (実績)	令和6年度 (上半期実績)	令和6年度 (目標)
歩行測定会参加者(フレイルチェック実施)数	(人/年)	575	313	500
上記のうち介護予防サービスに繋がった人数	(人/年)	7	0	10

「歩行測定会」

- ✓事業の効果や要介護認定、医療費抑制効果等を見るためのデータ分析方法の検証
- 委託業者やアカデミアと連携してデータ分析方法について協議や検証を行う。

「訪問型サービスC」

- 利用者の状態をアセスメントし、現状に合わせた計画を立ててサービスを提供した。サービス利用後はアンケートをケアマネに依頼し実施した。
- ✓プログラムの内容によって、従事する専門職の負担が多くなってしまうことがある。
- 利用者1名に対して専門職1名が訪問を行うのではなく、専門職2～3名でチームを組み、負担が偏らないようにしていく。

「通所型サービスA」

- ✓利用者数、事業所数ともに横ばいである。
- 利用者数増加のため、ケアマネージャー等への事業周知方法を検討する。

「通所型サービスC」

- 関節痛の緩和や日常生活動作の改善を目指し、個別に運動療法の指導を行った。
- ✓サービスに適した対象者の把握及びサービス利用後の健康状態を把握すること。
- 利用者増加のため、周知方法を検討や、利用終了後の運動の継続や社会参加への促進をすること。

「見守り配食サービス」

- 低栄養の要件で申請した高齢者へ、管理栄養士が訪問し、栄養指導を行った。
- ✓訪問の受け入れが難しいケースがある。
- 利用者の栄養改善のため、訪問以外の手段で栄養指導を検討する。

(2) 第9期まえばしスマイルプランの取組状況について

② 令和6年度上半期の取組状況

2) 目標II 介護予防・健康づくりの推進

※第9期まえばしスマイルプラン 71頁～を参照

◆ 介護予防の推進

ウ 一般介護予防事業(介護予防普及啓発事業)に関する取組状況

目標	第8期		第9期	
	令和5年度 (実績)	令和6年度 (上半期実績)	令和6年度 (目標)	
ピンシャン！元気体操教室				
延べ参加者数 (人/年)	72,767	32,531	70,000	
参加者のフレイルチェック実施数 (人/年)	41	※全会場終了後に集計	50	
一般介護予防教室				
実施回数 (回/年)	45	17	50	
延べ参加者数 (人/年)	479	171	700	
高齢者健康教育(教室)				
市主催:延べ参加者数 (人/年)	2,230	1,239	2,500	
老人福祉センター:延べ参加者数 (人/年)	4,667	1,695	5,000	
高齢者健康相談				
市主催:延べ利用者数 (人/年)	380	160	400	
老人福祉センター:延べ利用者数 (人/年)	4,793	2,202	4,500	

「ピンシャン！元気体操教室」

✓参加後の介護予防効果の測定やその評価をすること。
 >フレイルチェック等の結果を分析して、効果を明らかにする。

「一般介護予防教室」

●シニア元気アップ教室を3コース、美味しく食べてご長寿講座を2回開催した。
 ✓歩行測定会後の専門講座や半年後のフォローアップ測定会の参加に繋がらない方がいる。
 >タブレット端末を活用したフレイルチェックの結果を分析し、効果的な教室の内容や開催方法を検討する。

「高齢者健康教育(教室)」

●高齢者サロン等の依頼により、健康に関する講話を実施した。
 ✓効果的な啓発のため、おすすめの講座を提案したが、依頼されるテーマが定まっている。
 >依頼を受けた際に、他テーマも提案していく。

「高齢者健康相談」

●健康保持、介護予防等を目的に、健康教室や健康教育で相談を受付けている。訪問や電話による対応もしている。
 ✓相談者が少ない。
 >老人福祉センターでも健康相談を開催していることを周知し、相談に繋げる。

(2) 第9期まえばしスマイルプランの取組状況について

② 令和6年度上半期の取組状況

2) 目標II 介護予防・健康づくりの推進

※第9期まえばしスマイルプラン 73頁～を参照

◆ 介護予防の推進

エ 一般介護予防事業(地域介護予防活動支援事業)

に関する取組状況

目標	第8期	第9期	
	令和5年度 (実績)	令和6年度 (上半期実績)	令和6年度 (目標)
ピンシヤン体操クラブ 活動数 (件/年)	65	68	68
はつらつカフェ設置数 (か所)	32	33	34
介護予防サポーター育成			
新規登録数 (人/年)	68	※研修終了後に集計	50
累計登録数 (人)	1,417	1,417	1,470
活動者数 (人/年)	714	714	745
認知症サポーター養成			
養成数 (人/年)	1,765	1,264	1,200
うち養成講座(企業・職域区分)の養成数 (人/年)	556	539	600
オレンジパートナー新規養成数 (人/年)	24	※1月開催	20

「ピンシヤン体操クラブ」

✓活動を継続していくために、担い手への支援が必要である。
 >時間や内容を緩和した「ピンシヤン元気ひろば」への登録も推進し、新規立ち上げ数の増加を目指す。

「はつらつカフェ」

✓閉じこもりや認知症予防を目的として行っている通いの場であるが、コロナ禍以降活動を再開できていないカフェがある。
 >再開できていないカフェと連絡を取り、今後の開催について検討していく。

「介護予防サポーター育成」

●(新規登録者数)市内6会場同時に養成研修を実施中である。
 ✓担い手養成のニーズが高い地域と、サテライトでの養成研修が実施可能な地域が一致していない。
 >地域の担い手養成について、課題のある地域を養成研修の実施会場として選定する。

●(活動者数)圏域別定例会及び圏域ごとに活動を実施した。
 ✓サポーターの高齢化による後継者が不足している。
 >介護予防サポーターのモチベーション向上を図るとともに、介護予防事業・研修会への運営協力の機会を増やしていく。

「認知症サポーター養成」

●養成講座について、市主催の他、認知症キャラバン・メイトが開催している。
 ✓養成講座の開催を依頼する団体が固定化している。
 >地域企業への養成講座の広報活動を進めると、キャラバン・メイトの活動を展開して養成者数の増加を図る。

(2) 第9期まえばしスマイルプランの取組状況について

② 令和6年度上半期の取組状況

2) 目標II 介護予防・健康づくりの推進

※第9期まえばしスマイルプラン 74頁～を参照

◆ 介護予防の推進

エ 一般介護予防事業(地域介護予防活動支援事業)に関する取組状況

目標	第8期	第9期	
	令和5年度 (実績)	令和6年度 (上半期実績)	令和6年度 (目標)
介護予防活動ポイント制度			
活動ポイント数(活動数) (ポイント)	14,383	※年度末集計	17,000
ポイント交換者(活動者数) (人/年)	383	※年度末集計	530
登録者数 (人)	1115	1,115	1,320

「介護予防活動ポイント制度」

- (登録者数)「ボランティアビギナーズスクール」を毎月開催しているほか、登録対象となる介護予防サポーターの養成研修を実施している。
- ✓制度の周知と活動機会を拡充すること。
- 介護予防サポーター養成講座のサテライト開催を継続して登録者の増加を図るほか、歩行測定会や認知症イベントの協力等、活動機会を増やす。

「前橋版フレイルチェック」

- 歩行測定会、シニア元気アップ教室の参加者に対し、フレイルチェックを実施し、結果のデータを集積している。
- ✓事業の効果や要介護認定、医療費抑制効果等を確認するためのデータ分析方法の検証が必要である。
- 高齢者フレイル予防モデル事業を進めるため、事業の効果分析・評価方法を確立する。

オ 一般介護予防事業(一般介護予防事業評価事業)に関する取組状況

目標	第8期	第9期	
	令和5年度 (実績)	令和6年度 (上半期実績)	令和6年度 (目標)
前橋版フレイルチェック実施数 (件/年)	581	277	500

「通いの場でリハビリ専門職が関わった対象者数」

- リハビリ専門職がピンシャン体操クラブでフレイル予防に関する講話、体操の説明及び実技を実施した。また、認知症カフェへの出勤や、歩行測定会で個別のアドバイスを実施した。
- ✓近隣公民館等で歩行測定会を実施したが、その歩行測定会に参加できる層が偏っていたため、評価が難しい。
- リハビリ専門職の通いの場への関わりを充実させるため、講話や相談等の普及啓発プログラムと体力測定等の評価は機会を分ける。

カ 一般介護予防事業(地域リハビリテーション活動支援事業)

に関する取組状況

目標	第8期	第9期	
	令和5年度 (実績)	令和6年度 (上半期実績)	令和6年度 (目標)
通いの場でリハビリ専門職が関わった対象者数 (人/年)	800	※11月集計	830

(2) 第9期まえばしスマイルプランの取組状況について

② 令和6年度上半期の取組状況

2) 目標II 介護予防・健康づくりの推進

※第9期まえばしスマイルプラン 77頁～を参照

◆ いきがい活動・社会参加の促進

ア 人が集う居場所づくりに関する取組状況

目標	第8期	第9期	
	令和5年度 (実績)	令和6年度 (上半期実績)	令和6年度 (目標)
通いの場の設置数 (か所)	839	838	850
通いの場に参加する累計高齢者数 (人)	12,979	11,803	15,000

「人が集う居場所づくり」

●1ヶ月の間で、通いの場に参加した人数や、通いの場での活動内容を調査した。

✓民間が運営している通いの場では、同様の調査を実施することが難しい。

➢市社会福祉協議会等の関係団体と連携して居場所づくりを進め、通いの場の状況について情報を収集できるようにする。

「老人福祉センターの充実」

●高齢者の生きがい活動の拠点、介護予防活動を継続的に行える拠点として高齢者の健康増進、教養の向上、各種相談、レクリエーション等の事業を総合的に提供する。

✓高齢者の生活スタイルや価値観の多様化により、活動内容の充実に向けた検討が必要である。

➢施設の利用状況やニーズの把握に努め介護予防事業の活動拠点としての機能強化やデジタル機器等を活用した事業の展開などを検討する。

イ 老人福祉センターの充実に関する取組状況

目標	第8期	第9期	
	令和5年度 (実績)	令和6年度 (上半期実績)	令和6年度 (目標)
利用者数 (人/年)	171,206	100,349	185,000

◆ 高齢者の健康づくり

ア 介護予防と保健事業の連携に関する取組状況

目標	第8期	第9期	
	令和5年度 (実績)	令和6年度 (上半期実績)	令和6年度 (目標)
介護予防と保健事業の連携 ポピュレーションアプローチ:1圏域20人 (人/年)	73	57	140

「介護予防と保健事業の連携」

●若宮・城東・中川、上川淵・下川淵、桂萱、南橋、永明、大胡、粕川の7圏域で、握力・オーラルディアドコキネシス・歩行などの測定と、フレイルの知識の普及啓発を、各会場2回のフレイル予防教室にて実施した。

✓年々実施圏域を拡大しているが、業務量の増加に伴い、マンパワー不足が懸念される。

➢実施圏域拡大に向け、実施内容の検討を図る。

(2) 第9期まえばしスマイルプランの取組状況について

② 令和6年度上半期の取組状況
3) 目標Ⅲ 認知症高齢者支援の充実

※第9期まえばしスマイルプラン 83頁～を参照

◆ 認知症との「共生」

ア 認知症ケアパスの活用に関する取組状況

目標	第9期		
	令和5年度 (実績)	令和6年度 (上半期実績)	令和6年度 (目標)
市民への配布数 (冊/年)	7,000	4,000	7,500

「認知症ケアパスの活用」

- 発行部数を大幅に増刷し、関係機関への配布数や新規設置先を増
- ✓ 配布先の職員がケアパスや認知症の理解を深められるような働きかけが必要
- 各地域包括支援センターの認知症地域支援推進員が連携し、関係機関に対して冊子を通じた相談窓口の普及啓発を図る

「事前登録制度(見守りキーホルダー配布)」

- 地域の見守り強化のため、登録者情報を地域包括支援センターとブランチに提供
- ✓ 配付後に携行に至らず、見守りキーホルダーによる行方不明者の発見・早期保護に繋がった事例が少ない
- 登録情報の一斉更新を実施
- 事業の見直しや連携強化のため、市内警察との意見交換

「GPS端末貸出事業」

- ✓ アンケートから利用者の約2割がGPS端末不携帯と判明
- 個人に合わせた携帯方法の提案と事業の周知を継続

「認知症地域支援推進員等設置事業」

- 市の認知症関連事業の企画・運営に推進員が参加
- ✓ 今後の推進員の活動内容
- 認知症ケアパスを通じた相談先等の周知を進める

イ 見守りネットワークの整備に関する取組状況

目標	第9期		
	令和5年度 (実績)	令和6年度 (上半期実績)	令和6年度 (目標)
SOSネットワーク体制の構築			
事前登録制度利用者数 (人)	383	386	345
GPS端末貸出事業			
利用者数 (人)	81	67	70
介護負担が軽減した介護者の割合 (アンケートによる) (%)	84	88	75
認知症地域支援推進員等設置事業			
認知症に関する相談人数 (人/年)	716	377	700
認知症サポーター養成(再掲)			
養成数 (人/年)	1,765	1,264	1,200
うち養成講座(企業・職域区分)の養成数 (人/年)	556	539	600
オレンジパートナー新規養成数 (人/年)	24	※1月開催	20

「認知症サポーター養成」

- ✓ 市主催以外で養成を依頼する企業・団体が固定化
- キャラバン・メイトへ働きかけながら企業等への広報活動を継続
- ✓ オレンジパートナーの登録後の活動を具体化する必要

(2) 第9期まえばしスマイルプランの取組状況について

② 令和6年度上半期の取組状況

3) 目標Ⅲ 認知症高齢者支援の充実

※第9期まえばしスマイルプラン 86頁～を参照

◆ 認知症との「共生」

ウ 認知症カフェの設置に関する取組状況

目標	第8期	第9期	
	令和5年度 (実績)	令和6年度 (上半期実績)	令和6年度 (目標)
延べ参加者数(はつらつカフェ含む) (人/年)	3,951	1,511	4,000

※「認知症を語るカフェ」以外の集いは8月末時点の実績

- 市役所窓口への各カフェのチラシ配布スペースの設置、周知方法の工夫
- ✓ 参加者の内訳を見るとリピーターが多く、新規参加者が伸び悩んでいる
- 未再開の法人へ連絡を取り、今後の開催について検討
- 法人が活動しやすい要綱や補助要項の見直し

エ 認知症本人ミーティングの開催に関する取組状況

目標	第8期	第9期	
	令和5年度 (実績)	令和6年度 (上半期実績)	令和6年度 (目標)
延べ参加者数 (人/年)	41	25	60
本人視点を取り入れた施策の企画・立案数 (件/年)	2	0	2

- 旧日赤跡地の認知症伴走型支援事業の相談場所で開催
- 関係機関、家族会、オレンジパートナー、認知症地域支援推進員に協力してもらい、本人と家族の合同ミーティングと分かれて実施
- ✓ 新規参加者が増えない
- ✓ 本人視点の施策につながる内容にする必要
- 新規参加者を増やすための周知方法の見直し
- 本人同士の会話が弾む内容にするための工夫

◆ 認知症の「予防」

ア 認知症初期集中支援チーム体制の充実

目標	第8期	第9期	
	令和5年度 (実績)	令和6年度 (上半期実績)	令和6年度 (目標)
支援チームが把握した対象事例数 (件/年)	44	12	41
支援チームの介入により新たな医療・介護サービスにつながった人の割合 (%)	57	47	65

- 周知チラシの見直しのほか、市医師会や地域包括支援センターの管理者会議等で事業の周知
- ✓ 症状が進行している、精神疾患が疑われる、本人が介入を拒否する等、介入に大変苦慮する事案
- 支援の判断根拠等をチーム員会議で共有・協議

(2) 第9期まえばしスマイルプランの取組状況について

② 令和6年度上半期の取組状況

4) 目標Ⅳ サービスの充実と暮らしの基盤の整備 ※第9期まえばしスマイルプラン 89頁～、96頁を参照

◆ 介護保険給付対象外のサービス

目標	第8期	第9期	
	令和5年度 (実績)	令和6年度 (上半期実績)	令和6年度 (目標)
見守り配食サービス			
低栄養の利用者の延べ訪問件数 (人/年)	10	5	40
生活管理指導短期宿泊			
受入施設数 (か所)	4	4	4
利用者数 (人/年)	4	2	5
緊急通報システム			
設置件数 (件/年)	427	454	550
受信件数 (件/年)	1,334	776	1,450
高齢者福祉のしおり ホームページ閲覧数	2,395	1,212	2,250
通いの場でリハビリ専門職が関わった対象者数 (人/年)	800	※11月集計	830

「生活管理指導短期宿泊」

- ✓ 受入先の養護老人ホーム2施設への偏り
- ✓ 長期利用者の次の生活の場の確保や環境調整
 - 委託している他の2施設への受入れ依頼
 - 利用者が増えた場合の新たな受入施設の検討

◆ 介護人材の確保・育成

目標	第8期	第9期	
	令和5年度 (実績)	令和6年度 (上半期実績)	令和6年度 (目標)
介護に関する入門的研修			
研修修了者数 (人/年)	48	27	55
介護に関するスキルアップ研修修了者数			
研修修了者数 (人/年)	14	※2月開催	25

「介護に関する入門的研修、介護に関するスキルアップ研修」

- ✓ 受講者数の確保
 - 幅広い年齢層の興味関心につながる周知の工夫
 - スキルアップ研修終了後の活躍の場の紹介を充実

「緊急通報システム」

- 広報、介護サービス関係者と民生委員へのチラシ配布、市HP内容の改善等、周知活動の強化により新規設置数の増加
- 急変の受信以外に健康相談の受付をしていることの周知
 - ✓ 撤去件数の増加に伴う総設置件数の増加率の伸び悩み
 - 周知対象の拡大

「高齢者福祉サービスの認知」

- ✓ 市民アンケートの結果、特に10代20代の認知度が低い傾向
 - 高齢者福祉のしおりの配布場所を増やすほか、若年層への認知も図るためSNSを活用した周知を検討

(2) 第9期まえばしスマイルプランの取組状況について

② 令和6年度上半期の取組状況

4) 目標Ⅳ サービスの充実と暮らしの基盤の整備

※第9期まえばしスマイルプラン 94頁～を参照

◆ 介護保険施設・地域密着型サービスの整備目標及び取組状況

施設(サービス)区分		単位	第8期計画 (令和5年度末) 実績	第9期計画整備数						第9期計画 (令和8年度末) 目標
				令和6年度		令和7年度	令和8年度	合計		
				目標	実績	目標	目標	目標	実績	
介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム)	広域型	定員	1,834	0	-	0	0	0	0	1,834
	地域密着型	定員	155	0	-	29	0	29	-	184
	合計	定員	1,989	0	-	29	0	29	0	2,018
介護老人保健施設		定員	1,005	0	-	-12	0	-12	0	993
介護医療院		定員	65	0	-	12	0	12	0	77
特定施設入居者生活介護 (介護付き有料老人ホーム)		定員	890	0	-	120	0	120	0	1,010
認知症対応型共同生活介護 (グループホーム)	事業所	40	1 ※1	1	-	0	1	1	1	41
	定員	513	18	18	18	0	36	18	549	
小規模多機能型居宅介護	事業所	19	1 ※2	1	0	0	1	1	20	
	登録定員	528	29	18	0	0	29	18	557	
看護小規模多機能型居宅介護	事業所	1	(1) ※2	-	0	0	(1)	0	1(2)	
	登録定員	29	(29)	-	0	0	(29)	0	29(58)	
定期巡回・随時対応型訪問介護看護		事業所	4	1	下半期選定予定	0	0	1	0	5

※1) 大胡・宮城・粕川・富士見圏域を優先

※2) 認知症対応型共同生活介護(グループホーム)と小規模多機能型居宅介護又は看護小規模多機能型居宅介護の併設を計画
また、大胡・宮城・粕川・富士見圏域を優先

(2) 第9期まえばしスマイルプランの取組状況について

② 令和6年度上半期の取組状況

4) 目標Ⅳ サービスの充実と暮らしの基盤の整備

◆ 令和6年度上半期の取組状況

施設種別	認知症対応型共同生活介護 (グループホーム)	小規模多機能型居宅介護
整備区分	新設	
進 捗	選定済 ※令和6年度中に開設予定	
選定法人	株式会社樫の会	
所在地	富士見町小暮(富士見圏域)	
整備数	1施設18人分	1施設18人分(登録定員)

(2) 第9期まえばしスマイルプランの取組状況について

② 令和6年度上半期の取組状況

5) 目標V 安定した介護保険制度の運営

※第9期まえばしスマイルプラン 98頁～を参照

◆ 介護給付の適正化

① 要介護認定の適正化

調査票の点検結果や審査会の認定結果を検証・分析するとともに、適切かつ公平な認定を図るため、認定調査委託事業所向けに研修を実施した。今後も引き続き研修等を通じて、審査・認定の適正化に努めていく。

② ケアプラン等の点検

ケアプランの点検については、パッケージシステムにより様々な視点から点検対象を抽出し、書類提出や面談を通して実施した。住宅改修等の点検については、全件点検を実施した。申請書等の書面による審査のみでは給付の適正が判断できない案件について、現地訪問を実施した。引き続き効果的な方法で、利用者の状態に合った適正なサービス提供・保険給付であるかを確認していく。

③ 縦覧点検・医療情報との突合

国保連合会の適正化システムを活用し、複数月にまたがる介護保険サービスの利用状況を点検するなどして、請求誤りを早期に発見し、過誤申し立てを促している。

医療情報との突合は、適正化システムを活用し、医療と介護の給付実績を使い、給付日数や提供されたサービスの整合性を確認し、請求誤りを早期に発見して、過誤申し立てを促している。

目標		令和5年度 (実績値)	令和6年度 (上半期実績)	令和6年度 (目標値)
① 要介護認定の 適正化	調査票の全数点検	全数	全数	全数
	認定調査員研修会の実施 (回/年)	2	1	2
	介護認定審査員研修・連絡調整会議 における各委員の最低参加回数 (回/年)	1	0	1
	介護認定審査会合議体委員の入替 (回/年)	改選	1	1
② ケアプラン等 の点検	ケアプラン点検数 (うち、高齢者住まい等入居者の点検数) (件/年)	81 (56)	41 (9)	70 (20)
	住宅改修における現地調査数 (件/年)	2	1	4
	福祉用具貸与における実態調査数 (回/年)	1	0	1
③ 縦覧点検・ 医療情報との 突合	点検帳票数	5	4	5
	医療情報との突合月数	毎月実施	毎月実施	毎月実施
④ 適正化事業の フィードバック	適正化事業の周知回数 (回/年)	1	0	1